

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
小児がんの子どもに対する充実した在宅医療体制整備のための研究
分担研究報告書

「社会資源の情報共有に関する検討」

研究分担者

荒川 歩 ・ 国立がん研究センター 中央病院小児腫瘍科 医長

研究要旨

在宅移行を検討する際、地域で利用可能な社会資源を探しアクセスすることが最初のステップとなる。本検討チームにおいては、在宅移行を積極的に実施している病院の在宅クリニック選定における Tips や終末期診療のノウハウをまとめたパンフレットを作成し、患者の在宅移行を目指した時の一助にすることを目標とした。令和 2 年度に 11 施設の MSW や看護師を対象とした Web ミーティングを実施、そのあとの大隅班班会議内での議論を通じて、在宅医療の導入を検討している患者さんの家族に対し、在宅医療でどのような医療資源が利用できるのかを説明するためのパンフレット作成することを決定、令和 3 年度においては MSW の研究協力のもとパンフレットの内容について議論を重ね、令和 4 年度 4 月に患者家族および高校生以上の患者に提供できるパンフレットの完成予定である。今後、小学生以下の患者を対象とした小児用のパンフレットも作成する。班員の所属する施設内において、実際の説明時に用い、使用時の感想や意見をまとめ、改良し、完成させる。パンフレットはワークショップを開催し、紹介する予定である。

A. 研究目的

本研究では、小児がん患者に対する在宅医療を提供するにあたり、在宅移行を積極的に実施している病院の在宅クリニック選定における Tips や終末期診療のノウハウを交換できるような情報をまとめたハンドアウトやリーフレットを作成し、小児がんの治療に関わる主治医が患者の在宅移行を目指した時の一助にすることを目標とする。

B. 研究方法

3 年目の令和 3 年度は、研究分担者の MSW（鈴木・大濱・清水・池田）を中心に、患者および患者家族に在宅医療とはどのようなものか、在宅医療で利用できる医療資源はどのようなものかを説明するためのパンフレットを作成する。また、子ども療養支援士の加藤を中心に小学生以下の低年齢の患者を

対象として、在宅医療について説明するための小児向けのパンフレットを作成する。

(倫理面への配慮)

本研究は医療機関間の情報共有および患者に説明するためのパンフレットの作成について検討する研究であり、個人情報を取り扱うことは少なく、倫理面の問題は少ない。ただし、例外的に非公開情報を取扱う場合には、守秘義務及び個人情報保護を厳守する。

C. 研究結果

令和3年7月の班会議後より、研究分担者内で、患者さんおよびご家族が在宅医療とはどのように行われるのかのイメージを持ちやすいようなパンフレットはどのようなものか、実際説明を行うMSWの視点を重視しながらWebカンファランスを実施し、内容の議論を行った。令和3年11月より、実際のパンフレットの内容の作成および、パンフレットの中で使用する写真の選定を開始、また、患者側に受け入れやすい構成にするためパンフレット内にイラストを使用することとし、イラストの作成を並行して行った。令和4年4月にパンフレットの第1版を完成させる。

D. 考察

本分担研究は、実際の在宅調整を受け持ち、在宅移行に中心的な役割を担うMSWを中心として議論を進め、より効果的に現場のMSWや看護師間の情報共有が可能となることを目指した。令和

2年度に本研究の分担医師の所属施設11施設を対象としてWebミーティングを実施、その後の大隅班会議の中野議論の中で、患者および患者家族に在宅医療について説明するためのパンフレットがあまりなく、本研究分担の中で作成する提案があり、計画を変更して本年度はパンフレットの作成を行った。年度内にはほぼパンフレットの作成を終了し、年度の目標を達成した。

E. 結論

次年度は、小児向けの在宅医療を説明するためのパンフレットの作成および実際パンフレットを使用した際のフィードバックを受けた上で、パンフレットを改良、パンフレットを紹介する事を目標としたワークショップの開催を予定している。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし